

今曾路名所圖會 六

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

7



木曾路名所圖會卷之六

目録

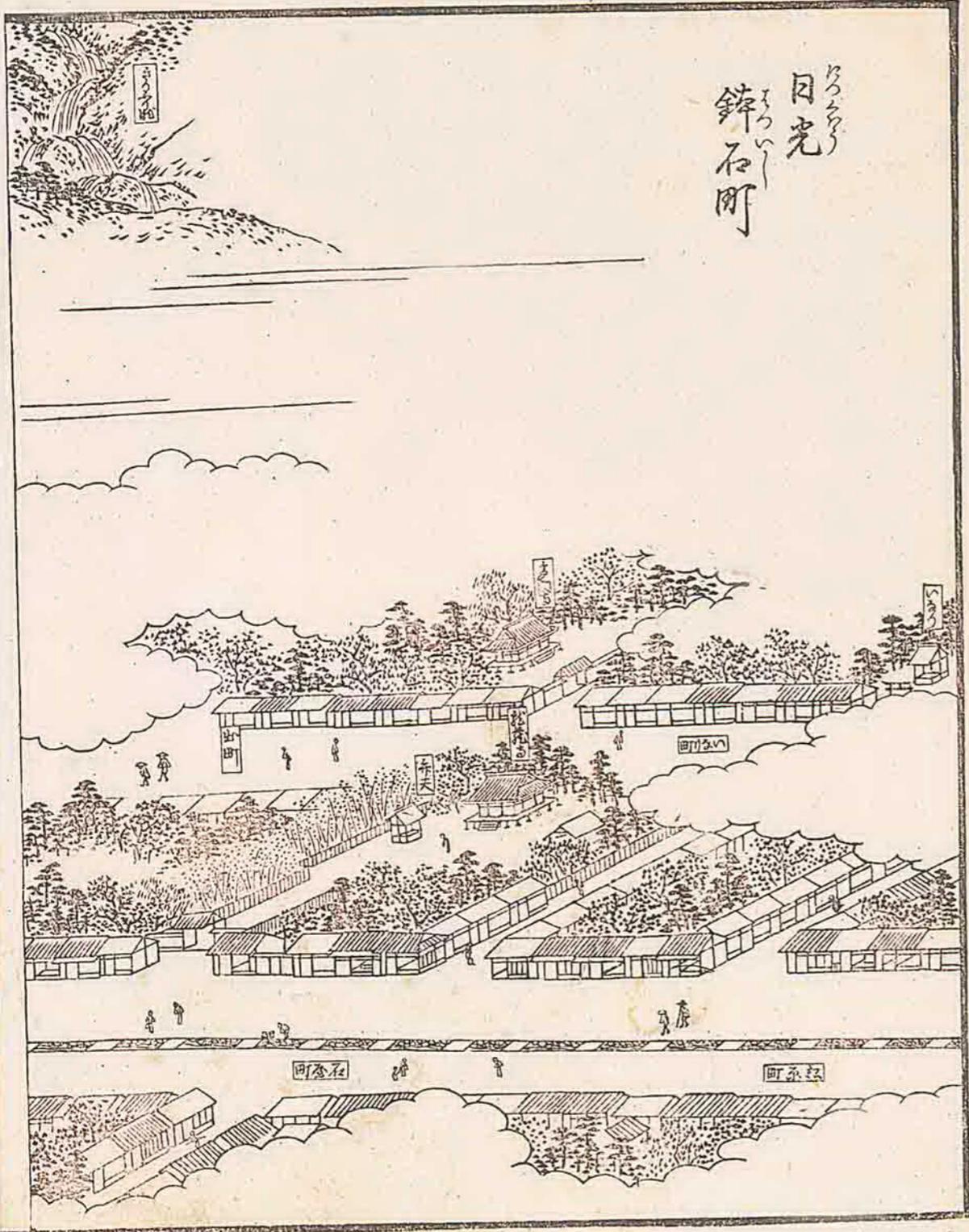
慈眼大師堂	新宮鳥居	御宮	拜殿	神樂所	鐘樓	御廐	御飯殿	深砂王宮	見目祠	日光山
龜井水	三佛堂	奥院	護摩堂	鼓樓	御手水屋	石燈	長阪	下桑石	黒髮山	黒髮山
稻荷祠	常行堂	御別所	御本地堂	紫銅御鳥居	御番所	石鳥居	神橋	碎石觀音寺	星宮	星宮
文殊堂	法華堂	相輪檜	御瑞籬	陽明門	經藏	二王御門	五層塔	飯橋	飯橋	飯橋

觀音堂	足痕石	十八王子	金剛山	骨堂	護摩堂	羽黒龍	大黒山	不動堂	池石	釋迦堂	南谷	番神堂
足尾	鞍掛山	藥師堂	中禪寺道條	素麩龍	石地藏	養生院	富士見山	三笠赤倉祠	二本杉	愛宕祠	西谷	別所
馬返	煩悩山	大日堂	地藏堂	平石	靈庇閣	阿彌陀堂	川俣温泉	寂光寺社	常行念佛堂	八幡祠	善女寺谷	三宮
不動堂	清瀧権現	裏懸龍	蓮華石	二宮山	赤柳山	慈雲寺	別所	二子山	求聞持堂	延命地蔵	妙道院	一宮

本地堂	三層塔	御産宮	不動石	批番神堂	根幸祠	二王風雷門	御別所	山王祠	地藏石	阿彌陀堂	新宮別所	廿日御靈舎
山王祠	本社味經社	白山権現	七花泉	手掛石	子種石	瀧尾社	正觀音堂	不動堂	藥師堂	三尊石	十八王子	新宮大権現
稻荷祠	辨天堂	小玉堂	天神祠	外山	酒泉池	千手堂	採燈護摩所	三笠赤倉祠	行者堂	大黒堂	毘沙門天	金剛堂
護摩所	鹿島祠	四本龍寺	地藏堂	氷岩	三本杉	幸地堂	石鳥居	熊野杉	石橋	十王堂	山王祠	慈覺堂

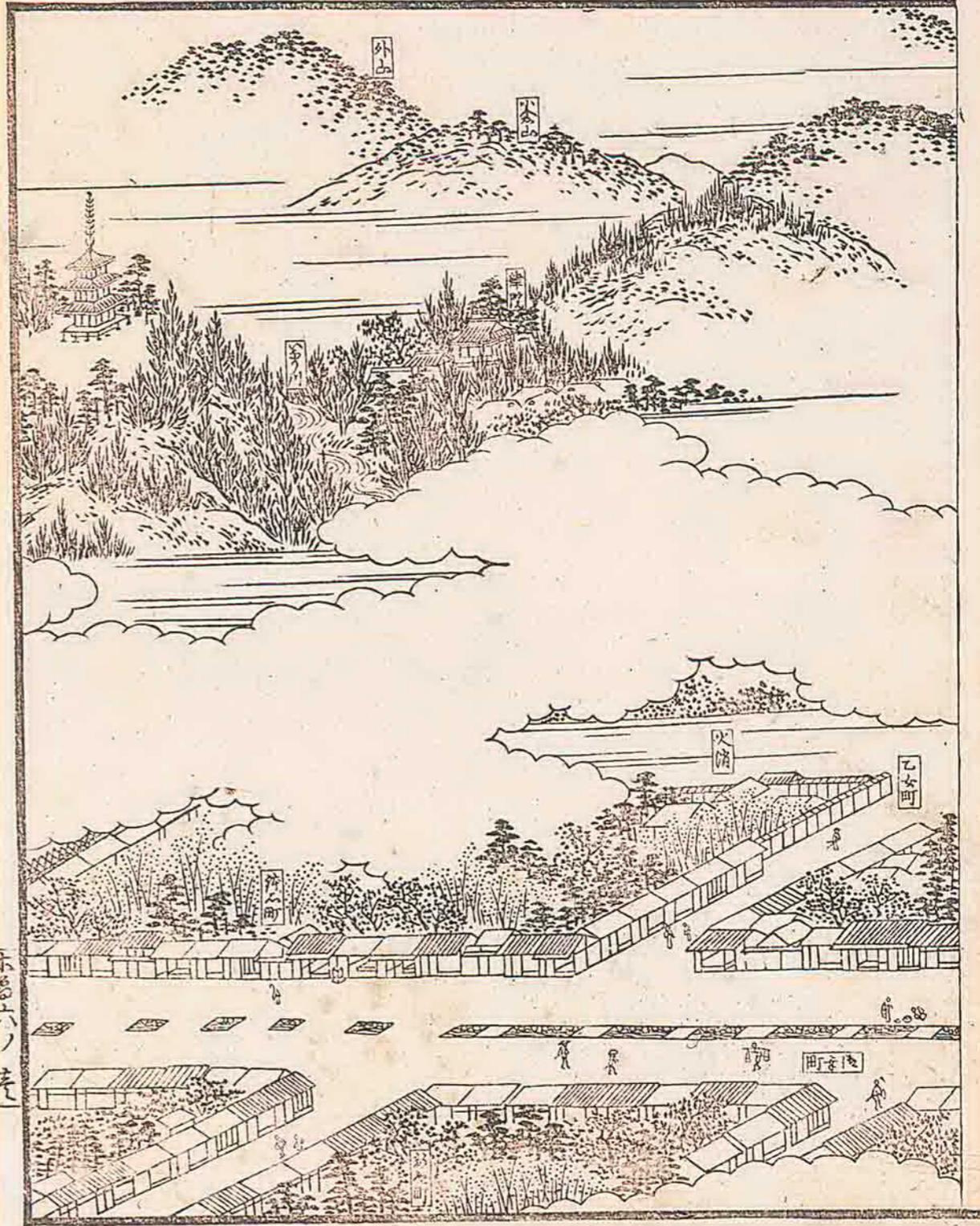
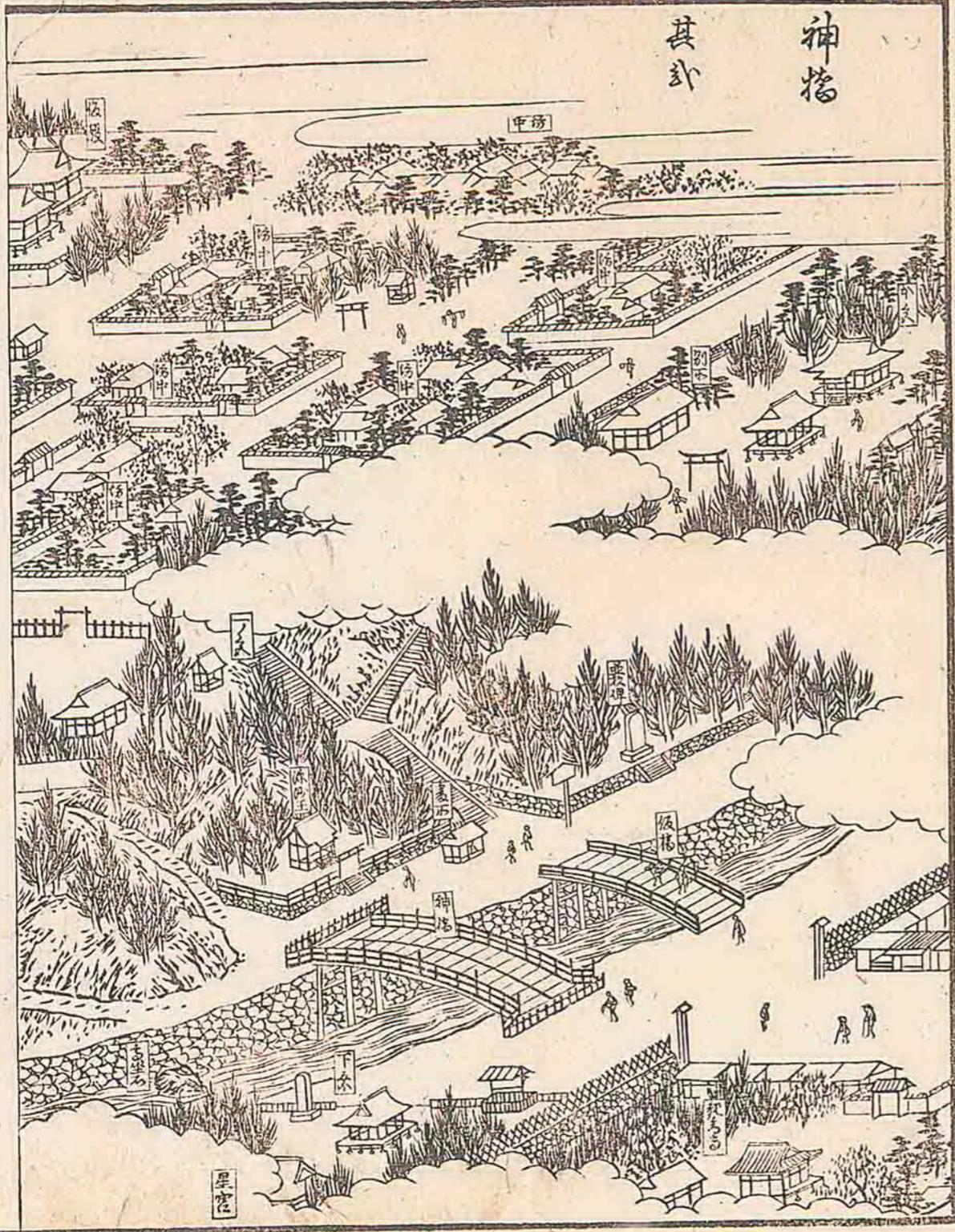
本巻六目一

日光
鉾石町



本居六目二

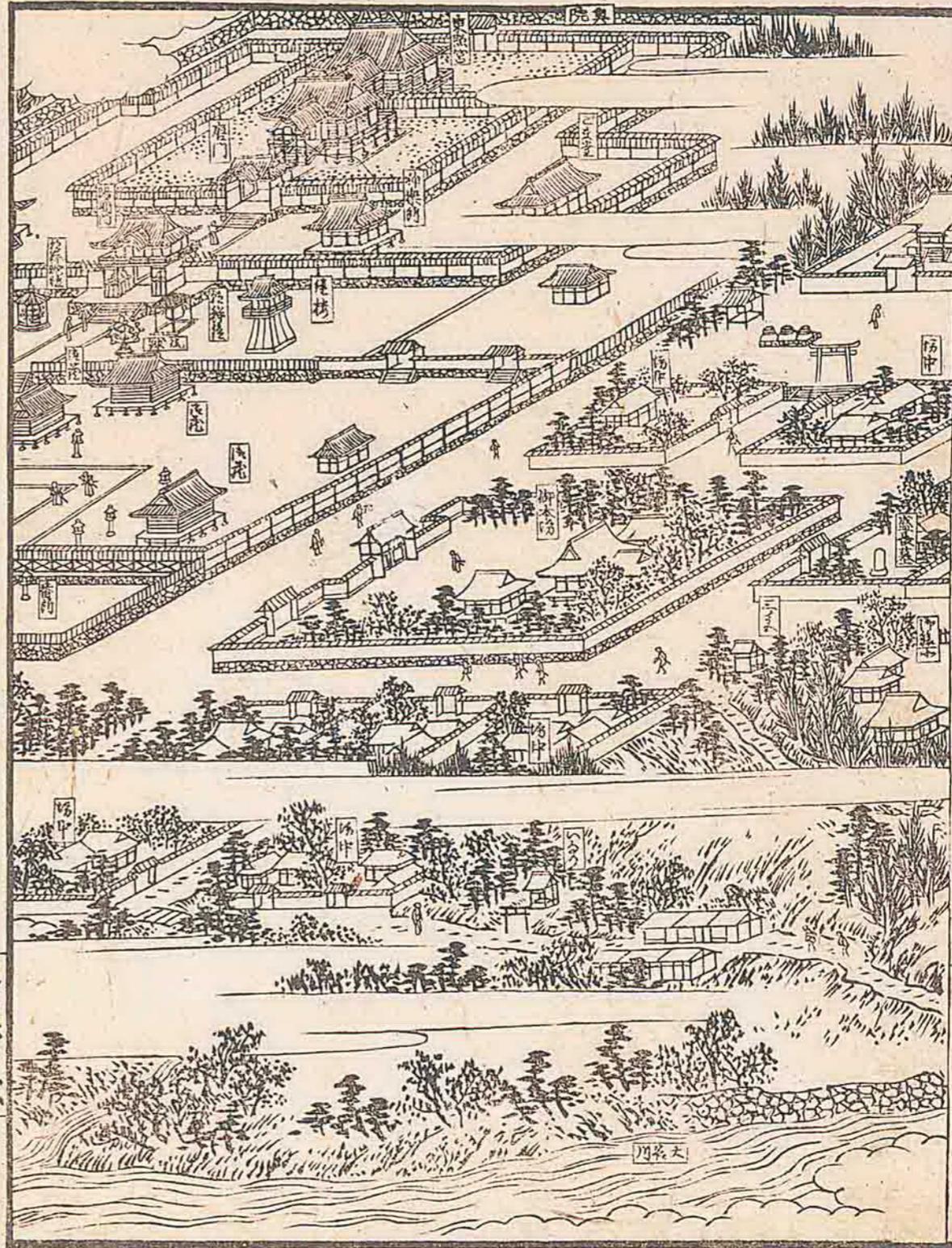
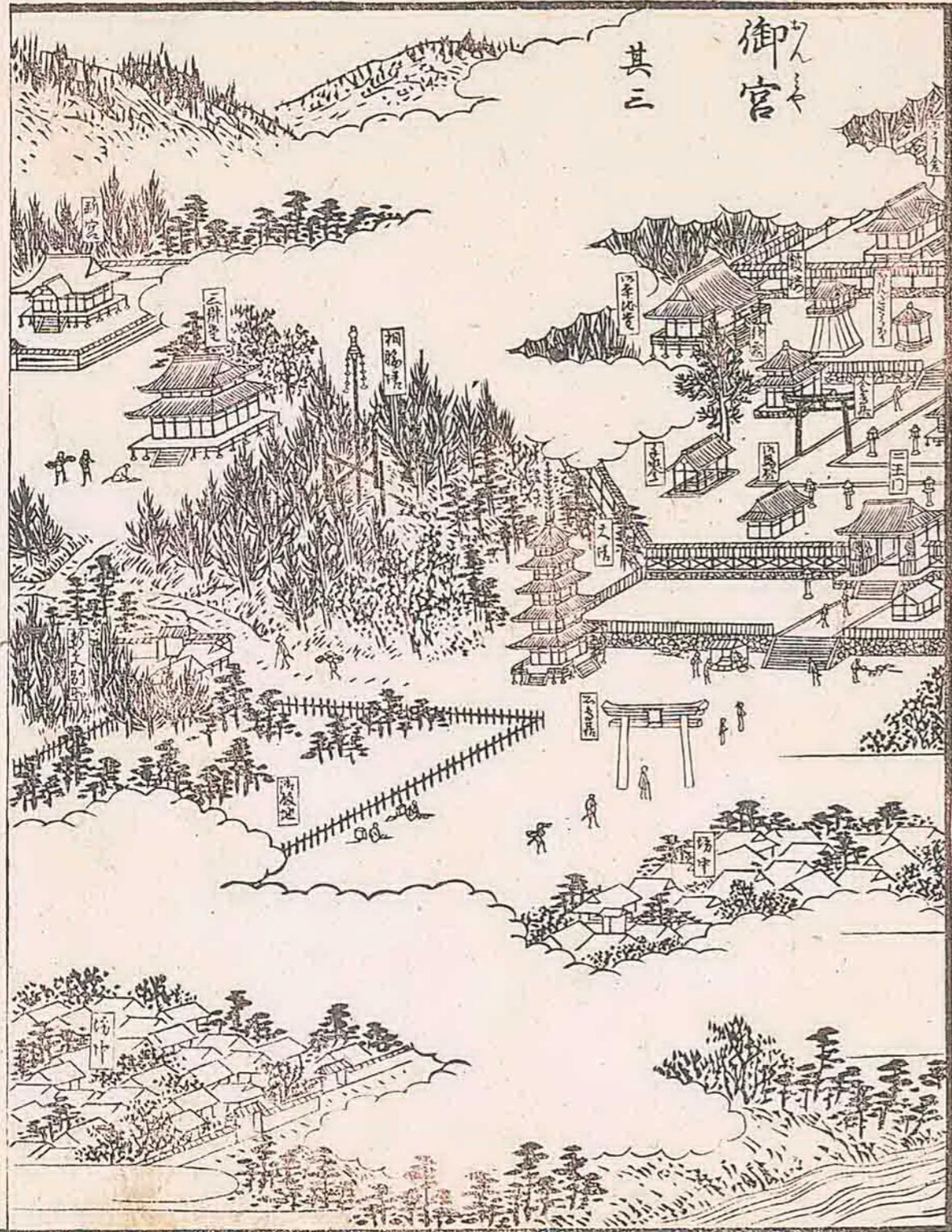
神橋 其式



赤橋六ノ巻

御宮

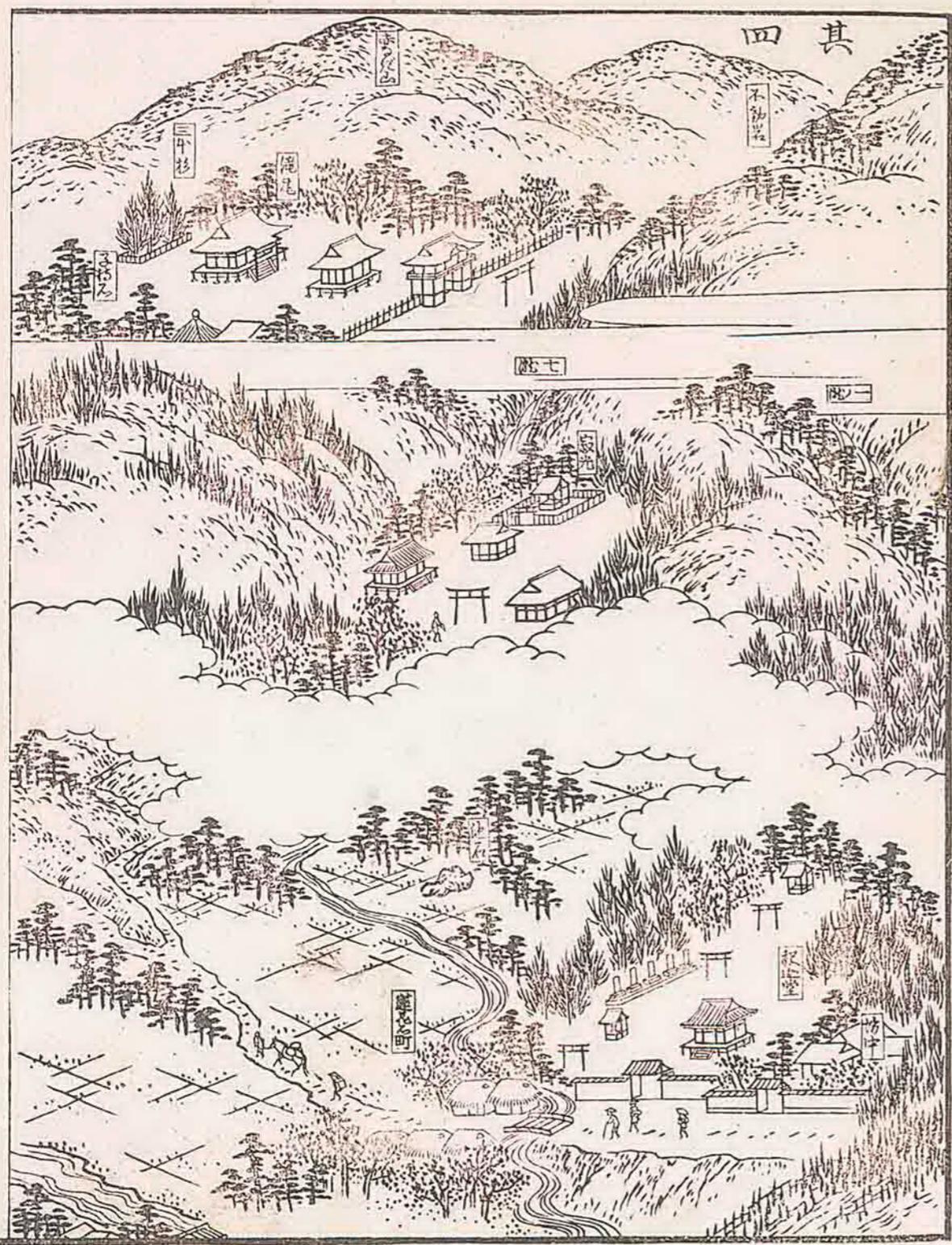
其三



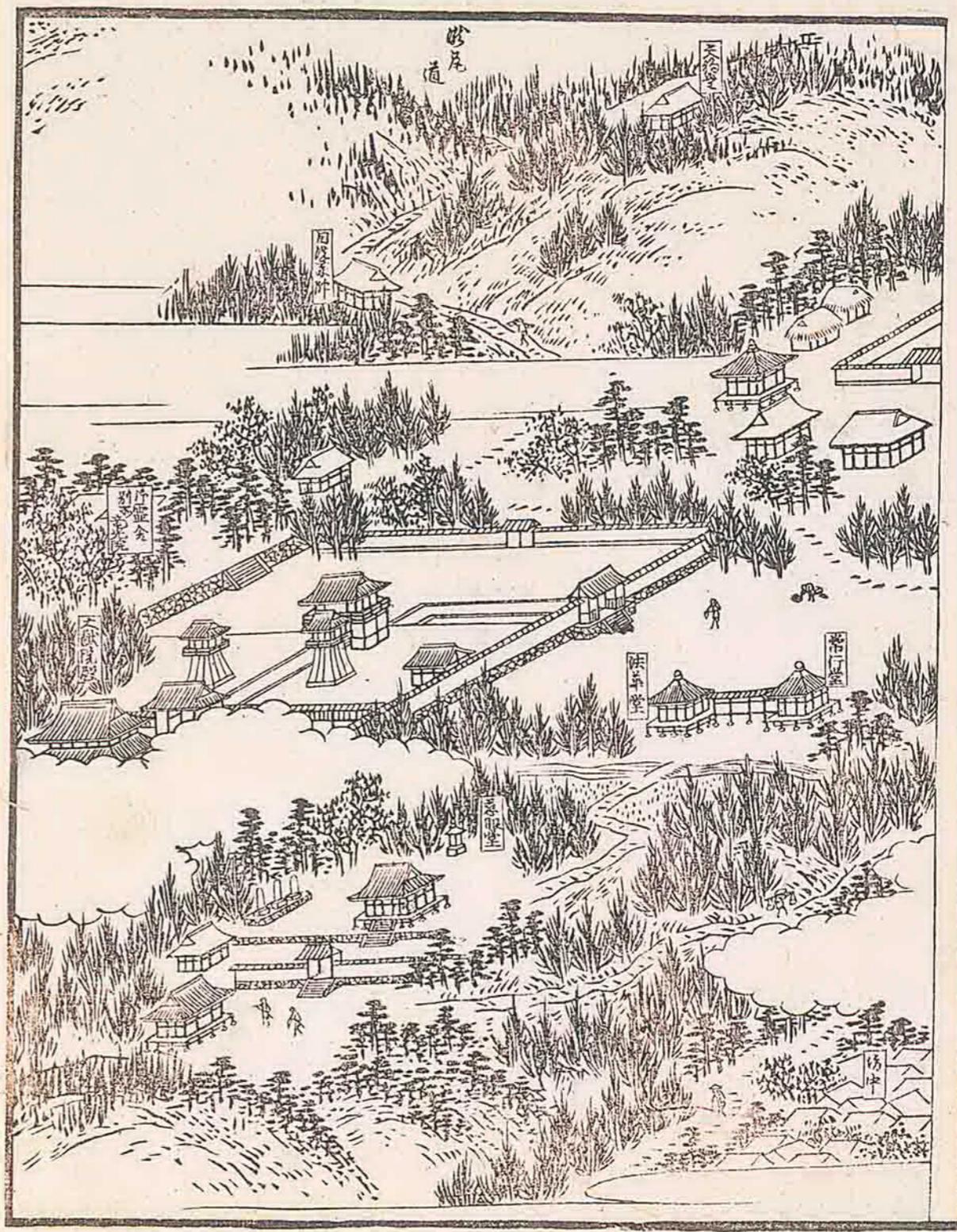
木下八郎

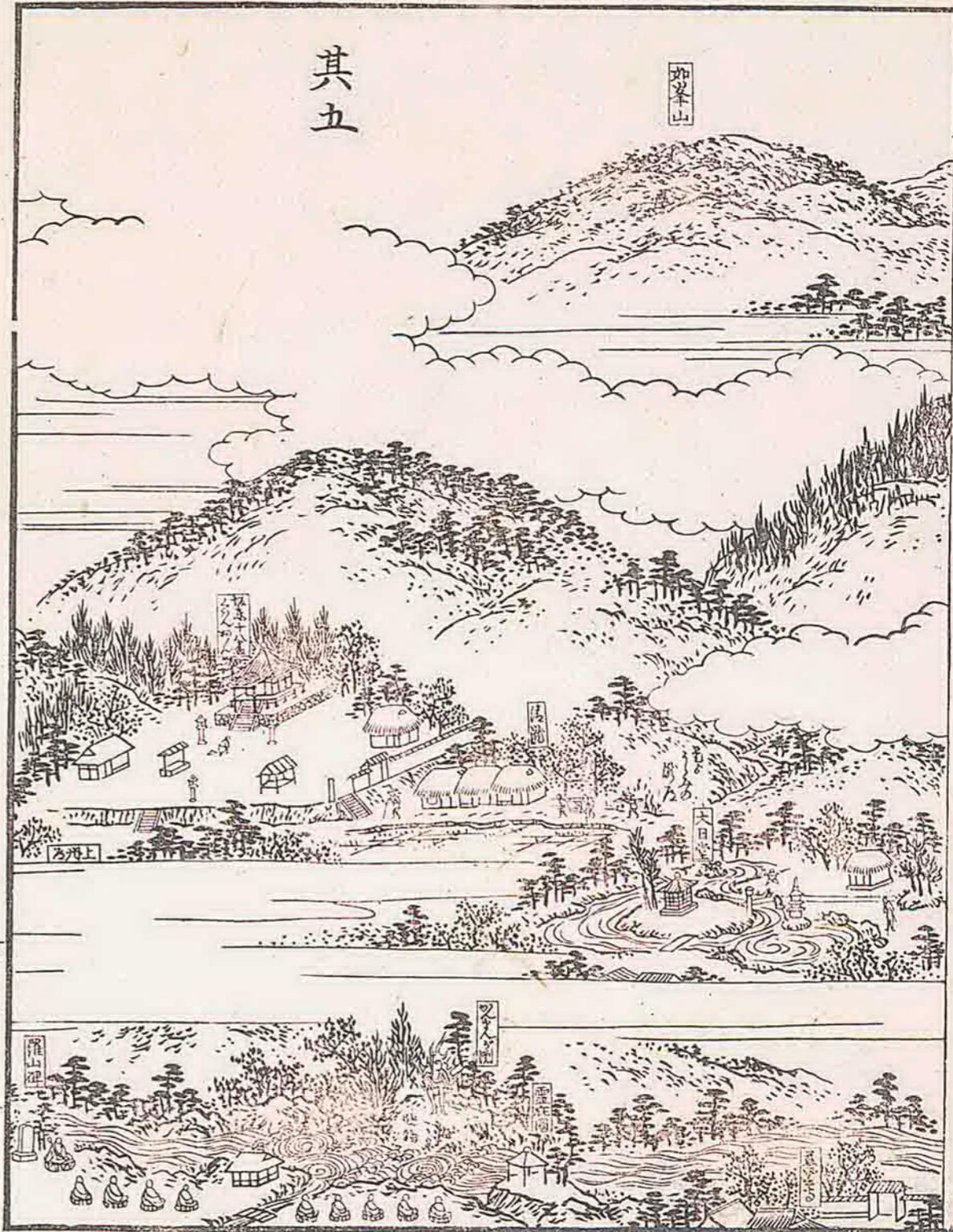
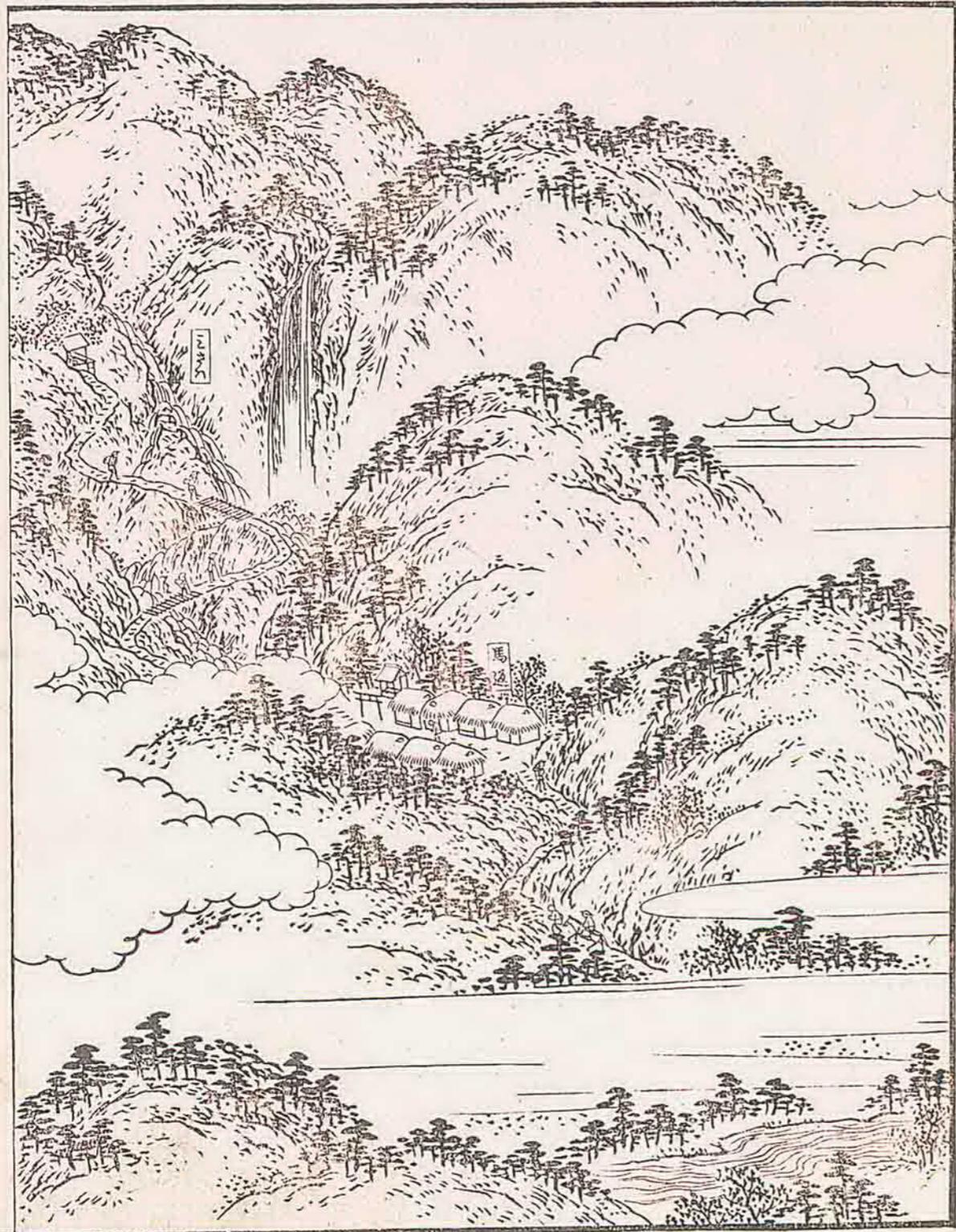
河原大

其四



妙尾道

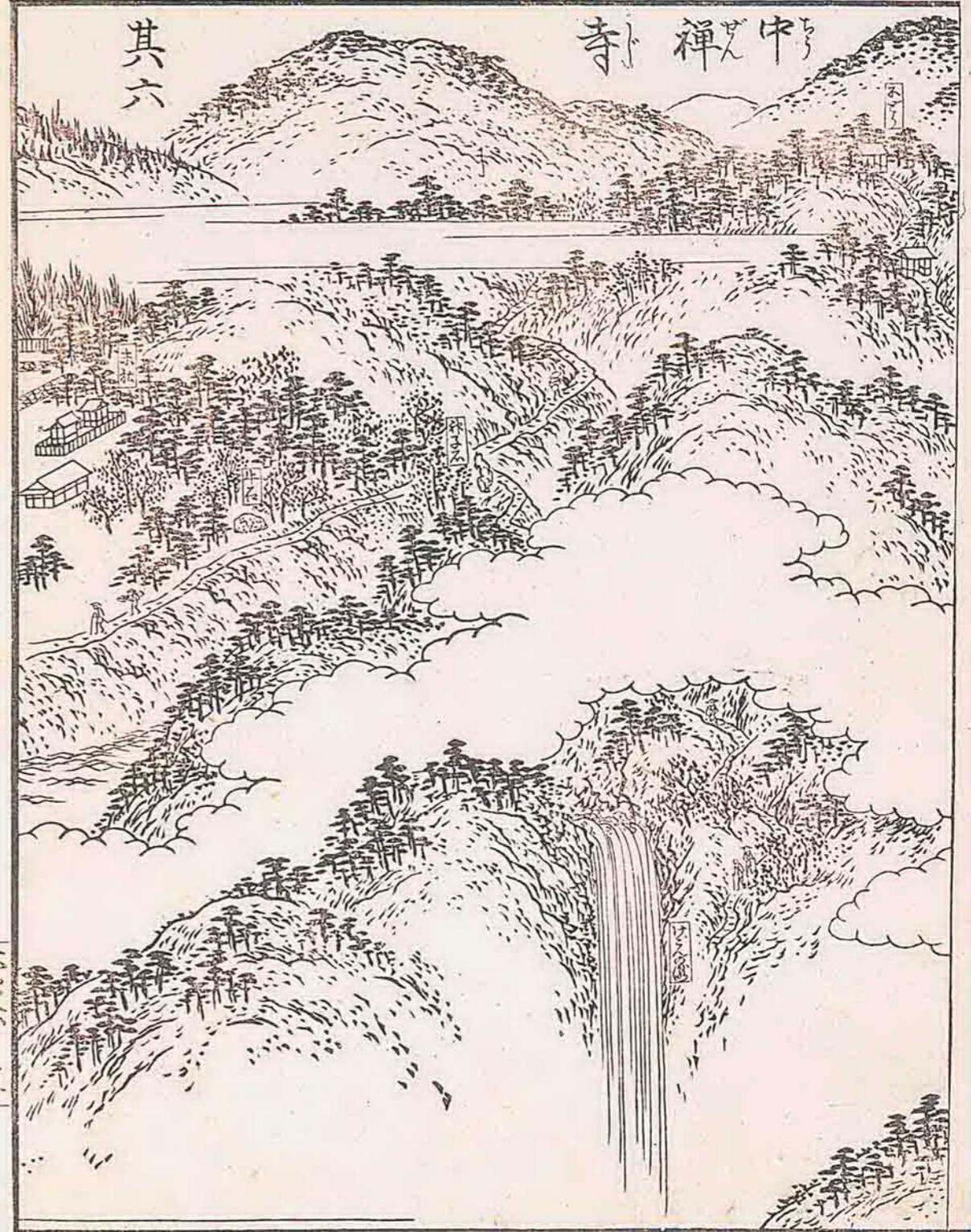
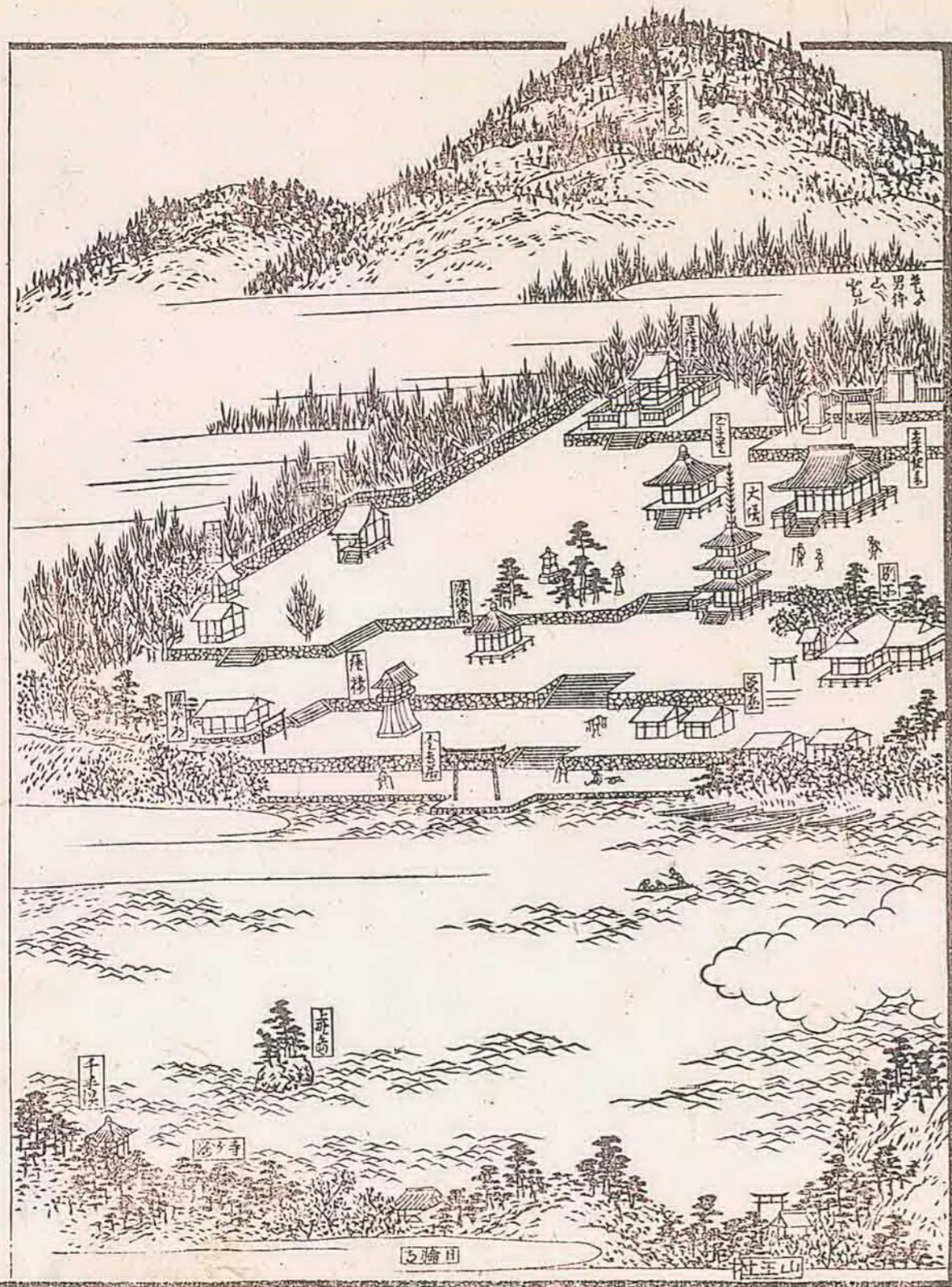




其五

如峯山

本卷六十四



五

本曾路名所圖會卷之六

今はむし一具原益軒のあらわれ日光名勝記をのりてこびる小
指しぬまの宮に於て文法をく徳を良て所の跡にたてて大沃今市を越
所を所よつるこれあん日光山のそとめく宮の宮より九里其道漸く
上る山は少くも高し左右の側は老杉の列樹ありてそ暑を避けぬ
涼しく御心とさふさうしめをばさうて慶に徳宗の靈場也

押下聖國都賀郡二荒山と人皇甲八代の帝稱徳天皇の御宇神
護景雲元年勝道上人の開創ありけし上人を曰は芳賀郡室八幡とて
出延あり父と垂仁帝第九の皇子纏向尊十餘代の孫若田氏高藤
磨とつと母と正二位左大臣若田清磨の息女と父母嘗てふはるれ
幸孤悲ひ河邊出流山千子とす小指と稱すはるれ一七を自満ざるを
八葉の蓮は申に藤系にく纏光る玉の中うあるその代とくはふと覺て
そはより好身とさうて月満上人を産めし則ち若の若ふよりて祖名

本曾路名所圖會卷之六

藤系丸とあつけは小指とす小見初ゆとを異相ありて佛門本公
ゆく砂城申の先土をよせ堂舎と營めし業はるむ好むはるむ
生成て出流の親者小系をて種くの修修の内ふたびく不思強
の清吉あり二荒山開創者幸孤思し古き移ひた七葉の清附日
國茶師寺にり剎後し移ひそはるり系念流遠んとくけしとす赴
き幸宮四幸龍寺依清建營所しく厥后中禪寺ありしその
所の靈社をさやぐを清系創ありとす幸ありて弘法大師登山
し移ひ二荒を日光を改先のひ又慈覺大師も登山し移ひて
所く小堂社然いとあは移し斯く星お八百餘系を移しとす元和乃
順意眼大師中興の岡山とて 神威を海内ふ耀しりする代
其靈場成はけあくも移しと其あはと記と傳のそ

黒髪山

日光山の幸
鳥羽玉の玉とみ山の山若ふ少くも海にたはくそ好りし 漢人志

新千

新後拾

日本紀第五云

崇神天皇之子豐城入彦命夢自登御諸

山向東而弄槍八回擊力於是奏夢事天皇以豐

城命令治東國是上毛野君下毛野君之始祖也

延喜式云

下野國河内郡二荒山神社名神

余案二荒日光音相近蓋其是耶又二荒和訓與

補陀洛音相似由是浮屠誘國俗而遂号補陀洛

釋書云

勝道姓若田氏野之下州芳賀郡人早山塵累鑽

仰勝業州有補陀洛山峰巒峻峙振古未有陟者

道以神護景雲元年七月企跋涉路險雪深雲霧

晦暝不能登止山腹凡經三七日而還天應元年

藤人の真若此等や朽ぬらんまうみ山の五月雨乃以 公實

身のうみからん事七とくぬ思按山の彦命を雪 頼政

山向東而弄槍八回擊力於是奏夢事天皇以豐

城命令治東國是上毛野君下毛野君之始祖也

下野國河内郡二荒山神社名神

余案二荒日光音相近蓋其是耶又二荒和訓與

補陀洛音相似由是浮屠誘國俗而遂号補陀洛

勝道姓若田氏野之下州芳賀郡人早山塵累鑽

仰勝業州有補陀洛山峰巒峻峙振古未有陟者

道以神護景雲元年七月企跋涉路險雪深雲霧

晦暝不能登止山腹凡經三七日而還天應元年

孟夏又興先志亦屈而退延曆之始季春之月發

大誓致勤修且日者固不到山頂亦不至菩提漸

達于頂衆峰環峙四湖碧深奇花異木殆非人境

道堅誓所遂悅目喜心乃結蝸舍於西南隅修懺

又三七日道雖究山區未盡湖曲三年之夏造小

船浮東湖西南北湖備極游蕩就勝處建伽藍曰

神宮寺居四載道行與靈境並傳桓武帝聞之勅

任上野講師又與都賀郡創葦嚴精舍大同二年

州界大旱刺史令道祈雨道上補陀山行法雪甘

雨速降百穀皆登

圓仁姓壬生氏野之下州都賀郡人也昔崇神天

皇第一皇子豐城入彦節察東壤其次子留為鄉

人仁其胤也延曆十三年生焉是日紫雲覆產屋

同書云

同書云

日光野

同郡大慈寺僧廣智德行兼優俗号廣智菩薩者也。適見祥雲出尋起所乃檀越壬氏之宅也。其後仁遂就廣智智將仁登膚嶽與傳教教悅納焉。世云圓仁大師登日光山立寺院。

又二荒とも書け入上の所沢初石とも又辨石とも書け今市より二里の間列樹の枝あると農家ありて辨石の本戸を入ふ松原所石

○瑞雲山龍藏寺あり奉尊親音を安ん慈覺大師の地なり先づり小

二十二番の親音あり辨助天堂惠心の地なりありて寺下盤坂赤

其所の中程小結守あり石裂神とあり又楯巻の原ありあり通り筋

辨石所と二三別あり下辨石所と本例は楯巻あり八乙女所とあり下

辨石の中程より

○寶珠院宝珠坊とて小寺あり寺内本親音堂あり運慶の地と聖

坂東の札所なり又所の向うより

○辨石山親音寺あり寺内の山上下千石親音堂あり弘法大師の地

かり上辨石所は本曲所の名製塗枿梳折委曲物多あり庭有

右初先の松系所より南所まで延々十二所外あり

○下馬け所左の方本石の原本糸登りて森の中より

○星宮あり奉尊へ天童を安ん奉ん殿あり日下續々南山と

出家入峯の節勅仍の堂あり星の宿とあり毎奉極月廿六日と

仍者下着此帷子一ッ條盡一夜めてして城勅りしめづりて此奉

の月下旬は宿本出く二月二日の日出峯とあり天中安泰園家

○豊鏡の御蔭敷あり行法は日所の蔭敷

○見目明神とせ給ふ

○下葉石け所より起り此方に見ゆる松の皮よりなる山石小倉と

其は凡そ山都てけさるるをんまが四方をめぐりて終る
はくまら

○神橋津山入口あり欄干葱宝珠ありつらも朱塗ありは橋を
りり山菅の蛇は橋とありて田基勝道上へ入りて登山
終りしは川よりありて橋なり深砂大王忽ちて現し青赤の二
蛇を放り橋より終り終り上人傍あり山菅沢川に蛇の背小鷹の波
たよりゆえづけて中河に神橋と名づ橋乃竹折三通ありこれ
乳の木とて西の端一の乳の木引籠一所を龍宮へ通下り
つひ橋よけ橋の内中七社乃婦神を勧修あり色帯に雜入あり平岸
者成りてせん橋をけくの附に神幸法樂の祝式あり

○假橋標干あり附東の馬をける川を大谷川とて大谷あり
水源と中禪寺湖水より流る右の左は坂と東山併岩苔の坊舎
竹通筋あり坂下に碑ありこれに 御神領の場より南前が

○深砂大王宮名居の額へ大明院一品准后法親王の眞筆ありは社と
神橋守護の垂れあり

○長坂 御宮への道筋神橋より登坂ありは坂を所す終あり
日所道のよ小軒月長月の清糸は清後所ありは所は終る三品
の清膳飯備へ人森樂以奏してさぬぐれ清祝式あり長坂より
中山通り小寺四所ありは中津津と流して寺内小安達殿を
盛長の石塚波安あり道の左は清築地と清殿地あり右のうこを
御幸坊 輪王寺宮とやまをれそあり石の居本坂登りて

○石鳥居あり黒田長政侯爵進ありは石鳥居前園志麻小倉九村の
ありある小山ありわたりとて高居の石鳥居あり南海とめぐりて
南山よ達せられより見たりは奥に元和に年正月とあるあり
高居の鳥居あり上りて二丈八尺九寸貫石の下に石

上二丈を尺上の望みの様より六間二尺四寸兩柱の間中へ二丈二
尺柱のつらろ二丈半ありと一兩柱は後目一所ありとも居敷あり
長サ四尺七寸横式尺寸七分ありとを清家と 後水尾院宸極し
左の方

○五層塔に柱の酒井續波守清家附より卒る東の基階をの延院
北を東邊南の邊變中央土日如未形り

○御假殿 二柱を 御宮清造誓の附邊ありとす所は所めく
二六冊中の淨紙はくろり又赤月十五日夕の庭上まで毎年淨湯と持
ちる則は五羽の釜にあり

○二王御門 北は清の北石原本兩殿石燈籠兩基と酒歩續波守源忠
勝初名の清を納まり日どく右の方小

○御番所ありは所中へうづ物とれ物をねとそとく清とみづろふ人
入るに儀客と系指の事亭主より揚麦の社傳ふ胡乳とくろ客

せうしひの金とく社傳の社傳の事柱を有と清門表小見や一見とく
出入を石燈籠と石二つありとれと書ゆり出傳徳彦の寄進小あり
あふふの石ありと才一石を居才二石五重塔才二石石燈の大石と
中里くろり石燈の内小壁換三間餘の大石ありとれ或阿房石荒園やと
りつたつひとくろとく

○二王御門 右石阿門二王長一丈式尺餘裏の方小唐獅子なりは御門
城今と右石は金燈籠石燈籠ありと是と諸彦方より清を納まり右の
方に清家親三箇所は及小圃あり植一樹あり

○清廐 素本遠より清神馬ありと右小廐ありと清を納まり清の清附
は所へあり

○清手水屋は清手水舎の清石原石原とく建て天井の彫物を浪小龍
龍形の手水石柱を肥前佐賀の城を綱清彦肥前より運送し
清を納まりの奉結の奉職とくろり清の清に清とて清と

○紫洞御多居あり

○經藏傳大士の傍に坐して佛とて石階を登りて

○鐘樓鼓樓 左の方小朝鮮より献上の廻金燭臺あり右の方小朝鮮より献上の捧鏡あり

日光道場為

大権現設也

大権現有無量功德合有無量崇奉結構之雄也

味曾有繼述之孝益彰先烈我

王聞而歡喜為鑄法鐘以補靈山三寶之供仍

命臣植叙而銘之銘曰

丕顯英烈

肇闡靈真

玄都式廓

寶鐘斯陳

參修勝緣

資薦其福

鯨音獅吼

昏覺魔伏

非器之重

唯孝之則

龍天是護

鴻祚偕極

崇禎 朝鮮國禮曹參判植行司直吳敬書

は鐘堂不持ん正月二日所祝式の時をとりは左の方小阿茶陀

の寄進せし地盤あり其制法日本の物なるりあ中を扱又琉球

より献ぐる二十六缸の地盤ありは諸諸彦方より所傳の所地盤

ありとありは所傳の方小

○御本地堂幸尊藥師如未三列鳳来寺碑の薬師と撰一ニ菩薩

十二神將を安置は所堂大伽藍に於て吳藤之柱金標卷長押の

地盤ありとありは所傳の方小

同本傳りた系龍の画あり狩野永真安信の字あり

○陽明門 但一武士といは所傳て刀とぬきて所門内へ入

は所門地盤を好くも

林裏の陽明門を撰と表ぬ所隨身左

右より極彩色なり裏と風神雷神御門の御額ハ

後陽成院の宸翰あり修小勅額門にも云々は清門の結構は彫物あり彫物も六琴茶書画あり八周公且織撈費長房盧放琴高院籍就肯康豊干王子献孔子顔回と云々其外二笑四友六侍九哲也至ふまで悉記と小字端もを及びぬ根生れと豹虎龍麒麟獅子獺いづれも南本の端小刻ありあり其まに多りたる所もあつたるハ鳳凰孔雀其外唐多あり日幸れ禽獸と云々其まに多りたる所もあつたるハ威令のうか物等ありと藤の藤小光輝とてありり然と云々中を通り此天井也然ハ狩野探幽守信の筆ありり此の圖乃天井也天女が書畫也右の清回廊折廻り百回ありり彫物の樂天が友子献此君又文を記す梅枝杯と云々此の如くは清門を令く庭上もあつたる唐石と清川ありり此の如く左の方也

○神樂堂毎月八乙女出仕して清神樂所奉養を以て祈ふるにび

○護摩堂幸尊五大尊明王十二天を安坐は祈ふあて正五九月十

一日より十七日まで天下安全の祈祈禱の護摩と修りせしむる

- 御唐門素木造清柱と上り龍下り松梅竹の彫物金具繫し向ふ方彼風と洋由巢父あり七賢七福神等彫物あり天井と天女の彫物あり清門と清の唐木城ありて昔は清の御所の至りて竹等形も支記とる小字もを及びぬ一板の板と其は清の御所のありていづれを細ある祈りても彫の本は用ひて修るあり一漆に細工の妙は神に入るるの也清庭石の上は唐銅もく意とる小字もを及り清門の左右
- 御瑞籬は彫物の千草萬花ありて色々の本間も遊び彫る風情も美事あり
- 御拜殿彫物に二所あり春宿の男女を修りてあり

御養鹿も六二十六歌謡とかけし清の御所と後水尾院宸翰あり繪の土佐左近將監の筆ありけし御着座の間と両方とも小異邦の名木香樹を集めて造りたる六偶は白く入るるの如し

さう小夜母のげうう若くたる椒蘭と花はく其業の敷日越は能く
鴉羽毛の敷金玉取取入る自然と鳥の中はく花鞠人とすは勢あり
御本社 奥原成三様十一間並はく長一坂の石垣八五間并見り
石垣前は二階ありとて一坂とありかたはく見り
御宮下の英霊なる春日幸一形り
芭蕉翁や花はく道云

外月形御山は清を姓背け清山成二荒山と書一筑室海大降
のくは日光と改免のふ子業末本とけり終すや今清光一夫
かをきて思候八若くありは民安迄の酒屋より控候りまて等と
けり一並ぬ

あつたうやま業末の業末の光り
御幸地と業末溜溜光の意作相殿と摩多羅神山王様現あり
毎奉外月長月の清神幸あり外月成 例幣使と下一終ひく
宣令成持ふ又 御名代とて高家方奉勅日く 御祭禮御奉行
諸彦方二人奉勅高社の清祝式奉宣する奉ハ等端小並がく一正ぬ九

月々 御座主の宮城も一光り一山の信侶社役の面々修人出仕
ありて天下安泰は清禱あり

○奥院清幸社の後山あり 御寶篋一宇業網よりうび清御殿
の清文庫ありけしつくと貴職もも奉奉清けり

○御別所大樂院は所より毎日 御宮之神供は備へられけり三佛
堂中二丁馬場先右の方

○相輪檣 縁と傳教大降六十四句の清願文を記して敷敷本より
日幸六所は建りてこれ六十餘列安全の清禱のつらあり功德無
盡なる所なりと意願大師尚山は清建管ゆりしけり小夜母の
人倫をりつら及び倉敷草本の影中で佛果成りてつら親く見
法縁の事は現を身て無量の罪を清く事奉り承く三悪道の苦を
免ん奉りて疑わぬとて甚深微妙の功德ありとて

あり多條の者と許されど日所也の方御別所龍光院より毎於淨膳
成備ふ

○新宮大権現とて棟造りてあり御殿あり日光大権現と稱しまた
衆神とて己貴命を本地とす千手觀音とす社を仁明天皇御宇に
奉中慈光入降の淨刹建ち九ヶ國中の人社とす東艦めと
見えしうけ推現の淨刹五穀豐饒福壽長満の淨神之神靈本
終と切丸を力世のほりれを刀拍を刀づとも五尺餘ありて靈劔を又
小山新宮と稱しは弘明甲其外玉葉集とて琵琶欄珊珠一ツとて二百目
あり額朝乞の淨額書ありの奥列春衡退討のとん持れしと其外
什寶ありとあり中めと勝道上人け推現の淨刹向の耐夜の社とす
中ノ淨神はは社小ねす毎歲三月二日を祀り二月廿八日より
三社の神樂を御殿小飾り供せられ存子ハ妓道と稱し日より稽古し
其日小まより夜裳と唱り親あり其所地真ありて神靈試むと先

な多神樂と奉宮神事形とて三佛堂のありて延奉の壽とあり
幸あり一山の衆徒中出動ありて由社所物と右の方に

○金剛堂あり○慈光堂素本造り奉り慈光大降の淨刹あり
三十番神不動尊成安に○淨供所あり

○新宮別所安養院文殊の像千子の像あり常行堂の東方あり
○新宮末社 ○十八王子 ○毘沙門 長五尺許 ○山王社

○阿弥陀堂 慈光大降 ○三尊石 列は千五百行者 ○大黒堂 運慶の
○十王堂 ○地藏石 右の方尾尾の道小へ不動尊あり尾尾中や十

二所餘あり小坂を登り中行ふ
○薬師堂は所より靈泉涌出たり神成を以て服成はは陰多ふ

○行者堂坂のそありにあり幸き彼小角より水道を察あり

○石橋あり 禁制の所あり
それより一町程あり

○山王社 向お造り 兼て名居あり此社と嘉祥年中慈覚大師の
御建定あり

○不動堂 幸乎明王二童子共運慶の儀ありは向へは滝尾とのふ
飛泉あり石階をせり中程ふ

○二王裏ふの風雷の二神を奉り家弘法大師の御宇に
左の方ふ

○坂中石不動あり

○熊野杖とて著供養の場あり
其坂の上

○淨別所は所て日光責とて食物供をむ者あり其
食物供あり又強養奉くむる也本捨形所の責道具あり

○浄別所は所て日光責とて食物供をむ者あり其
食物供あり又強養奉くむる也本捨形所の責道具あり

○千手堂宝瓶造 幸号長六尺好弘法大師の沛池

○幸地堂幸号阿弥陀親善勢至の二尊佛惠心傍都沛池是日幸

に三斛の幸号之日所後の方小

○根本祠小祠ありて終り西の方への道より

○子種石系小名居ありて子種人ける新系と見たりて雷應育

とつ其より

○酒泉池 池且七尺やどりむりけ所より酒涌出るといひ傳ふ今小

あわく酒の香ある泉にけち中にて石造の社を辨財天也

○三本杉幸社の後小ありめづり小石の垣ありて二社の神本はく日光の三始

よりありとつづれも大本あり中此一株は枯く植終り

○二十番神堂 狭帯ま終り六十六級の飛經の所と終り下向に

道のよりなり ○飯盛杖は杖古本もく杖より下へをり所よりあり

とつりりり ○初沛門とつり本の名居あり又左の方小 ○沛神

馬碑と終り沛龍の沛馬の碑あり幸号長年中濃州沛陣の附け沛馬

小石に沛勝利ありて終り碑の流と星表ありてんくごご ○手懸石

け石の昔権現の沛子とけけを終りともり佐左の方の橋河より向よの

高れと成 ○外山とつり毘沙門天を終り山山の鬼門小南より守僕名

とめとつり二月二日多終り集れ其山は終りを ○氷岩を畏の月よ

を水ありとつり又は終りの山よ ○不動名ありて山山海へ入る

○七龍あり水源より別は七所とありて

○天神社 池尾下向道右の方山岩小あり石造の社ありて終り寛文元

年二月廿八日菅原大島長氏法眼信幽流業を宰府の聖廟とあり

小横にてありて精進経く延宝七年六月廿八日商孫信祐石の社頭

を造りて神蔵中しく靈驗ありて流業に著しとつり ○十王堂

地藏堂宝瓶造りて所と佛名とつり幸号と終りて運慶の作

たりとつり比勝道上への沛龍日十弟子達の教を安ん上人を地蔵

薩摩の再修かまじくして所不立修の故に宗山雲とあり○裏り
上人の廟所并子あるの墓あり上人の清骨と中禪と上野修の納ま
まり

○清産宮向後ばくろき社に幸地普賢菩薩ありけ所して妊身の女
立形とれを安産とけ所のいれぬ

○白山権現幸地十一面観世音観三修より坊舎の赤紙通て中支の智

○小玉堂も并殿あり南社と早の化神とけ神の清幸神秘
るまはるる人あり三修よりま所はせ修り幸宮の境内も入石橋と渡
て幸本造のまあり

○四本龍寺宝社造幸言の千子親言より修小五太号勝道上人安
き南山冥祥の時上人あり住居し修り意跡たり

○三層塔幸言釋迦文殊普賢を安ん
御本社も殿あり系神味相高長根命幸地佛と馬頭観言あり

本巻の十八

大月二年勝道上人は所小動信し修り老社と宇勢文と清一射とふ
又宇都宮の社傳と大已貴令やらの南社清神と専武運長又弓
箭の清護神なり神威つらとる下野の大社なり神寶と神明の
清化の十一面観言中将姫蓮の系に織る佛画の切枝綱彌珠本其
外志かくこれあり末社あり○辨天堂 并十五童子 ○鹿鳴社
○幸地堂馬頭観音 ○山王社 ○稻荷社 ○採燈護摩所石像
不動大日菩薩と安ん ○鳥居ありて ○三十番神堂を修り

○別所は不も日光責の道具状け修り別所の内柱ふけり一面と
十一面観言表として観言修り熱下て修の別所も最座

の間とらさく秘器の履摩修りの間あり其やうに柱みか佛秘儀表
て建あると板小棟石像の若入る幸叶とん不思議さるる修りけ別所

のあは方森の内小
○三宮 幸地普賢菩薩
○一宮 熊野権現 幸地文殊菩薩 けあ社に清修所あり

上小立子伝中より神橋の中に入りて西苔の坊舎より小西門の
道より大谷川の川端を通りゆく又これより水の方指高川をわたり七
町やどりく天右律院あり真雲院と錦丘山 御座王帝建より
奉堂 希小ニ社持現社経花持門を建つ清爽浄なる雲雲浄海
摩磨の佛界より清寂と戒光殿一品法親の清なるあり

○南苔 西谷 喜女寺谷何事も神橋より西少よ高より西
町く出 四町所 石所 小袋町 幸町 上中下 大工町 上中下
板橋所 蓮花石所 け間の手前田母沢より高橋あり

○妙道院 石所の端ありけ寺一山の善提削く寺因小○釋迦堂が
寺座像の釋迦佛文殊菩薩と惠公の作く希よ慈眼大降の御乳有
け書く七帝の志佛と徳光堂のう高よ○愛宕持現寺釈迦日の
佛よりけ石成物く町頭小○八幡社南所の徳光寺よりうく小
○六地藏堂ありけ書のう高成通く七寂光寺へり遠あり神橋より

寂光寺で二十町餘ありけ道入りの服よ

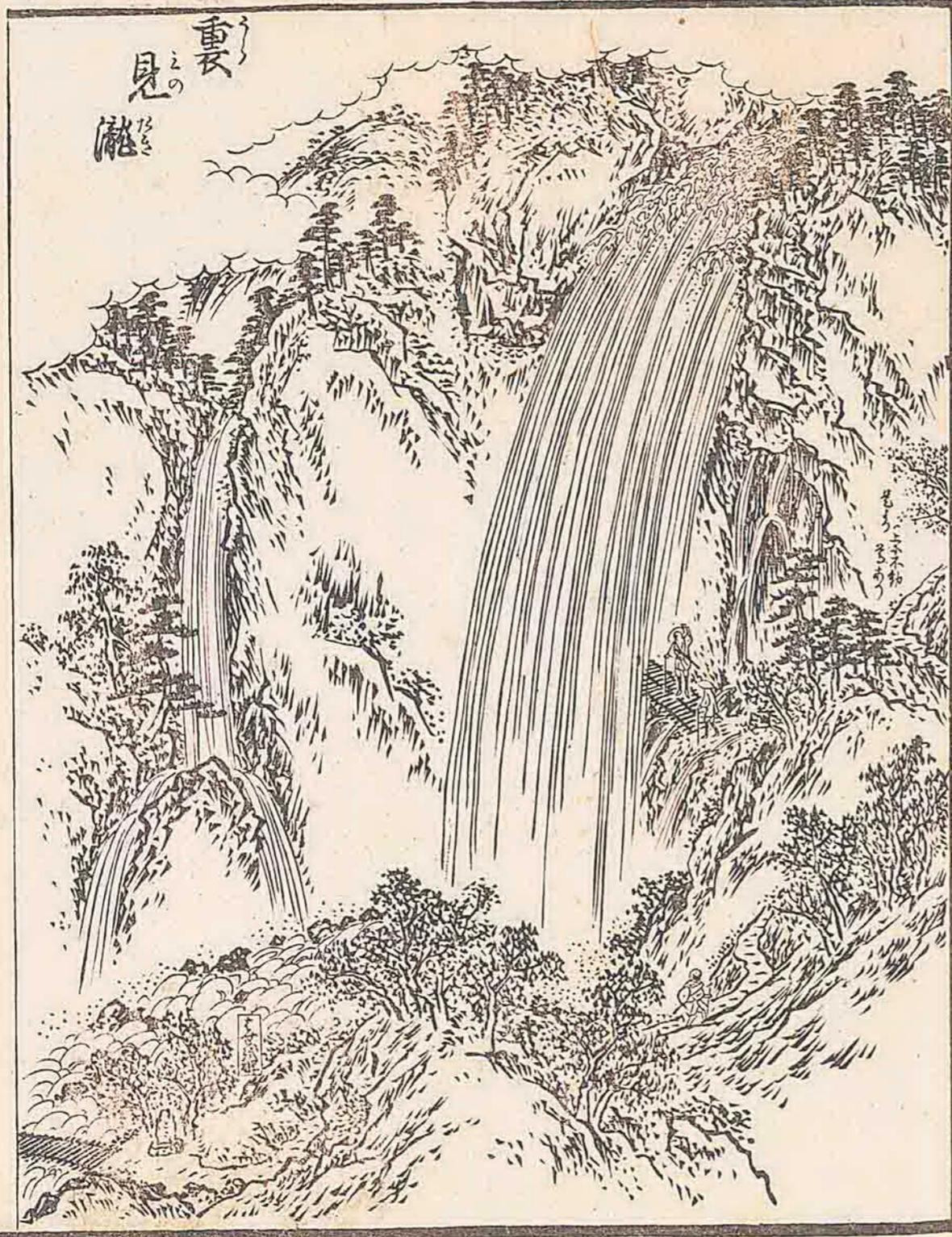
○延命地藏堂それより七八町ゆき○池石けるの上よふありなるあり
ゆふゆくしき又倍の云ありゆむく一坐法とせりよ名馬けるの中より
ゆ一少馬の蹄乃痕ありとぞそよより六町やどりく寂光の地小合

け入りよ
○二本松南山の一大杉母く大サ牛沢隠居より道狭狭く二つの木お封
せりけり希よ奉所ありて六七十町程のくたの方

○常乃念佛堂幸より延命三言佛惠公の清作く清正殿は阿弥陀を
寄んけ書く一釘念佛の札あり又細々とけ削りて病るなりと云ありけ
常信不忘の念佛紙乃を堂内より釘念佛の紙作覚源上人の清教ありけ
上人彌王より將來せり後夜の印文ありけとけ此縁起小ありけ
書のあ少く極く高れ削り

○求聞持堂幸より虚空持菩薩慈光の清作より歌と

一品准后法親王の真頼ありて多居入る向の方小○二十番神堂又
 少一登りて○不動堂○三益赤倉のむ社あり又少一のりて
 毎殿あり
 ○御本社寂光大持現多神ト照雄命幸地と辨財天女あり南社と
 弘仁十一年弘法大師の寄奉あり付室中十二の箱自身鏡その外
 あちこちあり右の方小池ありその源遠ありて箱鏡と解するべし
 尋の市成晒とあり一殿の南小池あり山傍の岩窟左のりてあり
 元工火延の梵字が四字空海と云給ふは地よりよ小○二子山
 ○大尾山は奥入る○富士見山ありは孝より富士のる根なる
 かなれば
 ○川俣の温泉をわく女入湯とあり浄寺社よりトあり
 ○別所あり寺内小辨財天十五尊と云給ふは安んは寺の長の方に
 ○羽黒滝とあり見ある原所より中町大工町を通り森の中小



○ 住持院は寺に二山の墓あり橋門の款を弘法大師の筆ありて妙光門とありは寺の名物と目所也

○ 阿弥陀堂幸き延陀二宮佛甚日の地を舟より大谷川の橋成りて大向河原とて少一町あり

○ 慈雲寺神橋より道十二所あり幸きと慈光大師又涅槃の款あり寺の老木大谷川より舟よりりて岩のよ

○ 護摩堂ありは祈合備が剛より白く岩れく舟不動の石佛圓珠像とて之此墓の剛の老木憾給の梵字ありそれよりりて左の山と云ふ

○ 石像の地を其投とて又老の川端也

○ 靈庇閣は園より服衣施を幸真丹廬山の五老峯青天階の物と金葉葉ともいひはと風色より揚國忠が沈香木成りて園とて一椀もは揮り射香乳香と土和にて泥とて一椀もは揮り四番園ともいひは

色一と向へ高ふと○赤郡ふより又雲の雲也

○ 骨堂とある岩切ぬれぬ人骨を獲むそのよ小羅ふに托せぬ碑あり侍小石像の地をより座像六尺許は一尺小剛あり慈雲寺の門とてよりいふ事とて前宿ふは寺に境内より三所坪の同河申も又河岸も青心怪石あり老の寺とて妙光佛とて板木梵字の名号と書りて伏求れとて竹書とて幸より又川橋頂ともいふは新と園東乃高世とて雲小紀の高野山の急務もと考ゆとて石を置りて山を築ふ○素懸滝あり○平石とて十の石ありとてより尾尾は右の方けりて高れ山也

○ 二宮と藤原御本金剛堂子の堂もあり日どれたはれ也

○ 金剛山は上化拵の窟とて入峯山伏の窟あり秘基勅りの道場なりは地へ人考りていひはたつとて山と云ふ○松立とて種も入峯

勅りの前より懸とては色不見く一山嶽とてみふ雲神のまを所かり築まさればなりとて記が

○中禪寺の道筋神橋より中禪寺まで二里余所より河母の橋をたつ

て川向ひと○蓮華石所坂を登ると○地蔵堂あり所の中程よ

○蓮華石よりありは石をむく勝道上人の中禪寺の通を修す時

のつとまなほは名あり右の方本寺の内よ○十八王子を修すは所

の結守なりこれより三所修すは右のつとまなほ村よりあるこの

村は社名町よりは所よ○業降堂幸き業降堂春日光月老十二神

将十王身衣波女等形又神明宮在蓮華石所より三所むりり

左の森よ○大日堂幸き石像の大日尊千舞佛安坐は日所よ

地蔵堂ありは所の地蔵像の像よ似たり乾子頭は向い水落くは年村

縁よむ坐園の地より偶は地よ幸き六所修すは風光のらるる又

大日堂の別道より右の方道の程二十町許ゆあは

○裏見瀧

北條町山登りて瀧あり岩洞の頭より飛流して百尺高き岩

若潭小落り岩高小身をむきめ入る瀧の裏より見るとうんの

瀧とすは入修り

勢射を流し小流もや甚せん初先

は瀑布泉高と十四五間許幅二間修岩窟の洞より飛流し向

の方へ走り幸猛獸の勢ひ小似たり傍より岩くたはははして道を

わねまのけしゆる岩窟の幸ゆつるは飛泉流うるを身におよ

名くはよ荒沢不動のまは流し凡たり小飛泉多しやのども

より見る瀧とあり小流より花帯文う庵山の瀧の清く白虹洞より

飲寒剣天小倚くまははありの幸なり

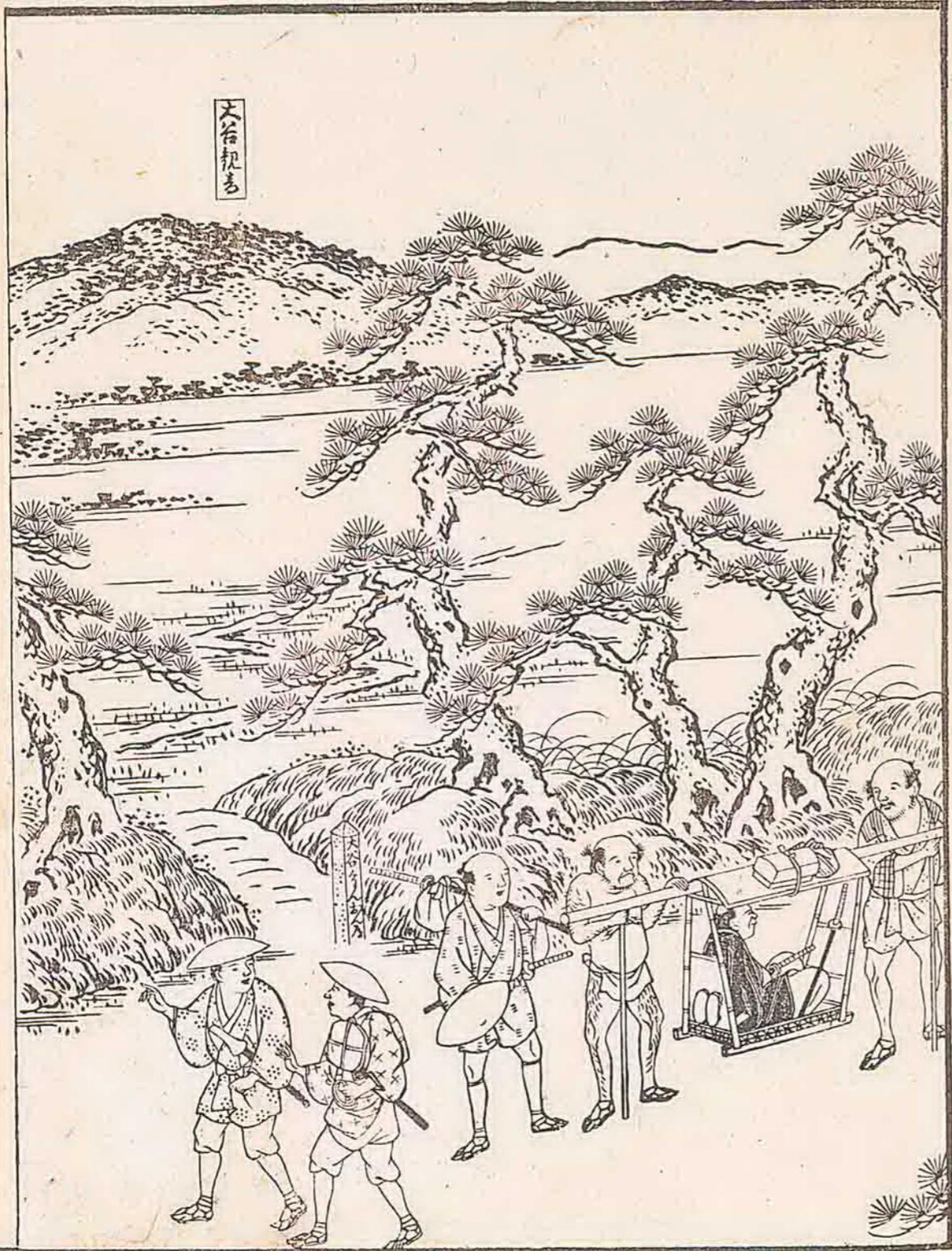
又は側よ小飛泉二ツあり砂子沢橋をたつて向ふよ○産れは是痕

ある石あり左のむくよ○鞍馬山○頼山あり砂子沢よりり

鳥井原地蔵堂ありそれより信濃村あり

清瀧寺山神を勝福中より幸き平安地蔵よりなり聖徳太子不動

天谷親吉



日光
公街
光道

野



寺をたけし寺の妙道院の幸寺なりけり妙道院の住職は寺にありて
越年あるあり寺内也

○清池持現は神神と天竺梵書の手山小舎毘羅神を崇め佛法擁護
の神神なり正月二十日の同儀奉祝ありけり宮のうへに岩屋風成
まてつふ似てありふ飛泉あり○清池のうへに神あり民村三所程
あり

○親善堂あり奉尊の太子親世音なり勝道上人神禱の之本親善の
うら本堂ありて毘羅の長七尺許る中禪寺の女人結界あり
けり本堂をよと女も長く結縁ありて之坂東十八番巡礼の札
所ありたのこの道なり○三尾村ありて山ありて道にあり
五里程あり三尾村通を上列へてけり折記をきく右のこの道
三所ありて水沢村を越て坂を登きて石社あり○牛王坂
ありてありてありてあり

○馬返まねり半馬返へてけり又女もこねりて馬返あり
こねりて日光を二里ありて小澤ありて粟橋ありて河原の石段あり
毛巖石ありて歩く一歩に神ありて深沢の堂あり又坂に水鏡堂
ありて石段ありててたは昔一びて険難あり登りて大平と云
所ありてあり

○不動堂石像の馬返ありてこねりてたは小除路ありて石像ありて八所
ほざりて水あり

○神子石を庵とてありてありてありてありてありてありてありてありてあり

○牛石ありてありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり

○折津門は折津より下系ありてありてありてありてありてありてありてあり

○折津門は折津より下系ありてありてありてありてありてありてありてありてあり

補陀山中禪寺

三里路

別所諸人ありてありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり